

令和7年度 自己評価実践報告書

学 校 名 福島県立いわき総合高等学校好間校舎

I 自己評価の概要

1 『学校経営・運営ビジョン』(別紙1)について

統合校としての初年度にあたり、前年度の学校評価結果をもとに、令和7年度の教育目標及び重点努力目標を協議し、全職員共通理解のもと「目指す生徒像」を実現するため各項目のねらいを下記のとおり確認し、4つの重点目標を策定した。

＜重点目標1＞ 「自らを律する力を鍛えます」

規律ある学校生活を送らせるために、全職員共通理解のもと指導体制を構築し、安全教育やあらゆる教育活動の中で徹底した生徒指導を実施し、基本的生活習慣の確立を目指す。

＜重点目標2＞ 「学ぶ力を鍛えます」

授業時数の確保、基礎学力養成問題集の有効活用、総合的な探究の時間の計画的運用により、基礎学力向上と家庭学習の習慣化を図る。また、組織を有機的に連携させ、各種資格取得の推進を図るとともに、計画的な進路指導を展開し進路実現を目指す。

＜重点目標3＞ 「心と身体を鍛えます」

特別活動、ボランティア活動、教科横断的な道德教育を積極的に推奨し、生徒自らがそれらの活動の意義を実感・体験できる体制を構築する。

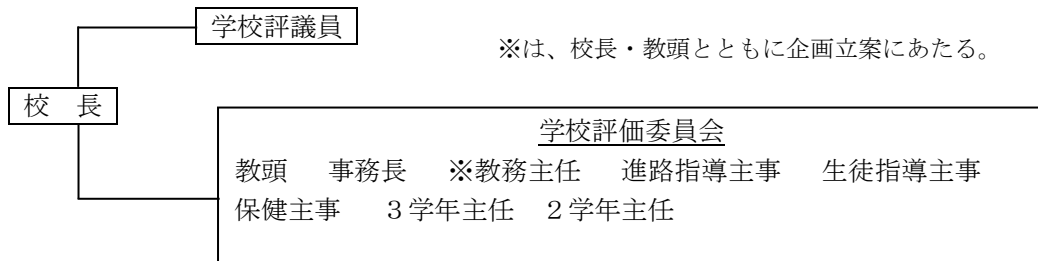
＜重点目標4＞ 「保護者や地域との連携で鍛えます」

学校・家庭・地域の三位一体となった教育活動を展開するため、教育活動の情報を積極的に地域に発信するとともに、諸団体との連携を一層密に相互協力体制の構築を図る。

2 校内組織体制について

職員会議が学校評価委員会を兼ねる。教頭及び教務主任が企画立案を行い、事業が円滑に進行するよう評価事業の効率化を図った。

【組織図】



3 自己評価年間計画について

- (1) 令和7年度学校評価事業計画(別紙2)
- (2) いわき総合高等学校好間校舎における学校評価システム(別紙3)
- (3) Web アンケートにより教職員、生徒、保護者の評価を実施する。
- (4) 評価のねらい
 - ① 計画的な自己評価や外部評価をとおして、絶えず教育活動の改善に資する。
 - ② P D C A サイクルを機能させ自己変革や組織力向上への意欲向上を図る。

II 評価結果の概要

1 実施方法等

項目	年度末評価			
	実施部署	評価	実施方法	コメント
生徒	学校評価委員会	4段階評価(A～D)	アンケート (電子化)	生徒の実態と課題を把握し改善へ向けた方策等の資料とした。
保護者	学校評価委員会	4段階評価(A～D)	アンケート (電子化)	自由記述欄も併用し、保護者の学校に対する期待や要望の把握に活用した。
教職員	学校評価委員会	4段階評価(A～D)	アンケート (電子化)	教職員の意識改革と意識向上実現へ向けた一助とした。
学校評議員	学校評価委員会	意見聴取等	評価書	地域社会からの期待や評価、本校が目指す教育活動について明確に把握することができた。

2 アンケート及び回答数

	初期評価		中間評価		年度末評価	
	対象者	回答数 (%)	対象者	回答数 (%)	対象者	回答数 (%)
生徒	74	74 (100%)	72	72 (100%)	70	69 (99%)
保護者					70	41 (59%)
教職員	17	17 (100%)	17	17 (100%)	17	17 (100%)

アンケートの回答率は、生徒は年度末を除き100%、教職員は年間を通して100%であった。また、保護者については、平成22年度に年度末のみ実施で成果を得られることが確認できたことから、年1回の実施としている。実施にあたっては、生徒を通じてQRコードを配付し、それを読み取って回答する形式とした。回答率は6割ほどであったが、建設的な自由記述もあり、この形式を継続していきたい。

3 評価基準について

評価基準	A	B	C	D
教職員	大変優れている	やや優れている	やや劣る	劣る
生徒	とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない
保護者	大変良い	良い	あまり良くない	良くない

評価基準は、上記のような4段階とし、肯定的な意見と否定的な意見が明確に分かれるように設定している。これにより、生徒や保護者の、本校に対する評価傾向を把握することができる。

4 年度末評価のまとめ

(1) 年度末評価実施の目的、意図

- ① 教職員、生徒、保護者が、それぞれの立場から1年間の教育活動を評価し、自己評価の客観性・透明性を高め、開かれた学校づくりに努める。
- ② 学校、家庭、地域が一体となり現状把握と課題解決へ向け共通理解を深め、様々な視点から検証し学校運営の改善を促進する。
- ③ 学校が、自らの教育活動や学校運営について、継続的に組織的な改善を図り、学校評価の実施と結果の公表により、適切に説明責任を果たすとともに、教育活動全般において、保護者や地域等から理解と参画を得て、その連携・協力による学校づくりを進める。

(2) 年度末評価結果の分析及び結果概要

- ① 年度末評価・反省(部・学年・教科) (別紙4参照)

② 学校評価（最終）（生徒・教職員・保護者）集計結果（別紙5参照）

III 広報の概要

1 目的や意図

教育活動の状況とその評価を公表することは、学校としての説明責任を果たすことである。また、教職員、生徒、保護者、地域社会から意見を聴取することにより、なお一層の信頼関係を深めるとともに、本校の教育活動に対する理解と支援につなげる。

2 実施計画・及び実施状況

- (1) 公式note：行事がある毎に随時更新した。また、授業などの普段の生徒の様子も積極的に発信した。
- (2) ホームページ：「学校経営・運営ビジョン」「自己評価実践報告書」などを掲載した。
- (3) P T A会報：保護者との合同制作である。11月と12月と1月に定例会を行い作成し、3月1日の卒業式に発行した。写真を多く掲載し、見やすくする等工夫した。
- (4) 一斉メール：適宜、配付プリントの確認や緊急連絡等で活用した。また学校閉庁日等の連絡手段として、生徒、保護者に学校代表アドレスを周知した。
- (5) 進路だより：キャリア教育の方針に基づき、生徒の進路意識の向上のため発行した。
- (6) 図書だより：新着図書の紹介等を全校生徒に周知するため、適宜発行した。
- (7) 保健だより：感染性となる疾病予防や季節に応じた健康話題を掲載して毎月発行した。

3 配付対象、配付時期、配付方法等

- (1) 配付対象：全生徒と保護者
- (2) 配付時期：P T A会報は3月1日、保健だよりは毎月発行した。その他は不定期であった。

4 実施してみたの反省点等

公式noteの記事は、教務主任を中心に作成した。できるだけその日のうちに更新できるように、分校舎であるため、教頭決裁で更新するようにした。画像を多く用い、的確に情報が発信できているので生徒の様子が分かりやすい。

IV 次年度へ向けて

1 評価結果の特徴、自己評価実践の評価等

生徒、保護者からのアンケート結果は、概ねA（大変良い）、B（良い）が多く、悪い評価ではない。現在行っている教育活動をより効果的なものにしていくことに尽きる。令和8年度に閉校舎となるが、好間校舎に入学した生徒の教育環境を卒業まで保障したい。

2 自己評価全体の次年度の取組について（ビジョン・組織・年間計画での反省点に基づいて）

今年度、部、学年、教科の年度末反省を本校舎の形式に変更した。年度当初から各努力目標の指標を教員が明確に把握するようにしたい。また、保護者の回答率を上げるため、Google フォームを使つてのアンケートをさらに浸透させて実施する。

3 次年度へ向けての課題、改善点、重点努力事項、展望など

閉校舎となる好間校舎の生徒たちの教育環境の質を保つべく、何事にも各部、各教科を越えた協力体制と意識を築くことが重要である。

4 終わりに

統合後も生徒主体の学校経営ができるよう、より「開かれた学校」とすべく、これまでに築いてきた地域との信頼関係を活用し、教育活動の充実を図る。

5 添付資料

- (1) 『学校経営・運営ビジョン』
- (2) 令和7年度学校評価事業計画
- (3) いわき総合高等学校好間校舎における学校評価システム
- (4) 令和7年度年度末評価・反省（部・学年・教科）
- (5) 令和7年度学校評価（生徒・教職員・保護者）